

法令

◎戰時重要林產物輸送路整備ニ關スル件

一九山第一、一三〇號

昭和十九年二月十日

農商省 山林局長
內務省 國土局長

殿

決戰下航空機用、船舶用及其他一般木材ノ充足愈々急ヲ要スルノミナラズ薪炭ノ供給亦忽ニスベカラザル狀況ニ有之候處之ガ目的達成ノ爲ニハ林道竝ニ之ニ關聯スル國道、都府縣道及市町村道中其ノ施設不充分ナル箇所ヲ急速ニ整備シテ自動車及荷馬車ノ通行ヲ可能ナラシメ且ツ其ノ積載量ヲ増加セシメテ車輛ノ不足ヲ補ヒ以テ小運送上ノ隘路ヲ打開スルノ要極メテ緊急ナルモノアルニ鑑ミ今般農商、內務兩省協議ノ結果昭和十八年度豫備金及追加豫算竝ニ昭和十九年度豫算ヲ以テ國庫助成ノ途ヲ講ジ之ガ完備ヲ圖ルコトト相成候ニ付テハ左記事項御含ミノ上周到ニ之ヲ實施シ其ノ效果ノ萬全ヲ期セララルル様致度此段及通牒候也

記

一 軍需用木材特ニ航空機用材ノ搬出ニ關係深キ路線ヲ必ズ優先的ニ

取扱フコト

二 本事業ノ施行ニ當ツテハ林地ニ於ケル生産計畫竝ニ其ノ實際ノ狀況ヲ考察シテ直ニ必要ナル路線ヨル之ヲ實施シ施行上無難無キヲ期スルコト

三 本事業ノ施行ニ當ツテハ此ノ際全線ニ互ツテ根本的ニ改修スル等ノコトヲナサズ眞ニ必要ナル箇所ニ對シ重點的ニ之ヲ行ヒ成ル可ク改修延長ヲ増大セシメ豫算ノ效率ヲ大ナラシムルト共ニ勞力及資材ノ節約ヲ計リ生産事業トノ競合ヲ避ケ以テ生産ノ實態ヲ阻害セザル様注意スルコト

四 工事施行ニ當ツテハ常ニ產物搬出ノ狀況ニ留意シ一時的タリトモ之ヲ遮斷スル等ノコトナキヲ期スルコト

五 土木、林務兩方面ノ充分ナル協調ニヨリ技術者ノ相互兼務或ハ援助ノ方法ヲ講ジ更ニ勞力資材ノ融通ヲ計ル等 本事業ニ對シ充分ナル一貫性ヲ與ヘテ其ノ完遂ヲ期スルコト

六 御料林、國有林當局トモ充分ナル連絡ヲ保チ其ノ生産ニ係ル產物ノ搬出ニ付テモ充分ナル考慮ヲ拂フコト

雜

報

◎東條內閣總理大臣及重光外務大臣の演說

第八十四議會再開一月二十一日東條內閣總理大臣は内外の關心を

つめる一般施政方針演説を行つたが、次の如き諸點がその骨子をなしてゐる。

一、今次戦争勝敗最後の岐路は眞に紙一重であり、一に國民の必勝の信念にかゝつてゐる。

一、今後益々物心兩面に互る長期戦の構へを固め、以て積極的攻勢に轉すべきである。

一、銃後の奮起は直ちに航空機の飛躍的増産となり、現状は昨年度に比較して二倍以上に達した、軍需省を中心とする増産態勢の整備は更に現状の數倍に達する躍進が期待される、來るべき攻勢作戦への切替へのためにも航空戦力の増強が急務である。

一、食糧事情は今後戦ひが如何に長期に互るとも何等の不安なき状況に達した、増産に挺身する農村の人々の努力に特に感謝する。

一、船舶損害の對策を強調し造船の急務を力説。

一、大東亞十億民衆結束の現状を強調し、最近米英が大東亞各地に非人道的冒険を行ひつゝあるが、これに對しては遠からず斷乎報復する。

一、印度解放には實力をもつて積極的援助を送る。

次いで重光外務大臣は約三十分に亙り就任後始めての外交演説を行つたが中立國に對する戦禍の不擴大特に日ソ兩國間の中立關係堅持の基本方針を闡明した點は注目をあつめた。

◎道路と疎開との關係

東京都第一道路出張所長兼第三方面疎開事務所長綾龜一氏は道路と

疎開とに付き左の意見を公表せられた。

「平時に於ける道路は交通の目的のため築造され、戦時の道路は其の外消防活動の自由防火隊、住民の避難場所等重要な目的のために施行される。

先日鳥取市の震災に於て其の道路幅員の狹隘のため破壊家屋が道路を塞ぎ消防自動車はその破壊家屋の上に昇つて漸く活動した程その機能を阻害された事を聞いた。

今や空襲必至の折柄帝都防衛上から都市計畫道路の幹線特に入口密集地帯に於ける幹線の施工は此際反つて緊急な事業であると思ふ。先日でも工事現場にて、

『私達の邊は自動車の通れる位の道路はある故資材のない今日そんな廣い道路を造らなくてもいい』

との付近住民の聲をききたいが非常時に於ける道路事業は一種の疎開事業に外ならない事をもつと認識して頂きたいと思ふ」

◎評議員の委嘱

本會に於ては一月朝鮮總督府鑛工局長江口親憲氏及臺灣總督府鑛工局長森部隆氏に特別會員並に評議員を委嘱した

◎「土地建物統制法規圖解」

久しく都市計畫局に勤務して甚大なる經驗を有する西村輝一氏が、土地建物統制法規圖解」と題し著述した。就いて見るに一、宅地建物等價格統制令並に附屬例規、二土地區劃整理施行地評價基準概要並に附屬例規、三臨時農地等管理令並に附屬例規、四臨時農地價格統制令並

に附屬例規、五地代家實統制令並に例規、六舊地代家實統制令並に附屬例規等は複雑多岐にして彼此比較研究するにも相當困難を感ずる、之れに鑑み簡明なる圖解し一見瞭然たらしむる様式となしたるものである、苟くも此等法規の規定する所を知らんとせば本書は缺くべからざる良書である、小石川區諏訪町好文館書店定價金貳圓拾八錢(洸民)

◎近刊圖書雜誌(寄贈交換)

- 電氣通信學會雜誌(第二十七卷一、二號)
- 都市公論(第二十七卷一號)
- 港灣(第二二卷一號)
- 鐵道軌道統制會報(第三卷一號)
- 自警(第二六卷一、二號)
- セメント統制會誌(第一卷第九號)
- 三田學會雜誌(第三七卷一、二號)
- 法律時報(第一六卷一月號)
- 發送電(一、二月號)
- 大大阪(一月號)都市要塞化特輯號)
- 土木雜誌(一、二月號)
- 土木學會誌(第二九卷一、二號)
- 道路(第六卷一號)河上房義氏「建設技術より見たる國土防衛、奥井復太郎氏」空襲と交通政策
- 土木試驗所報告(第七四號)
- (藤森謙一技師「積雪地方冬季交通に關する調査」)

○若葉吟社詠草

遲歸りの夜風冷けく落し水	藝
嫁ぐ日を黙々と明日の砧かな	同
療養の日向むさぼり秋の縁	落
肌寒や窓に戦ける雨の竹	同
老の身の炭火懐かし宵の秋	同
今朝を征く兵の籬や菊薫る	同
芋掘の娘等に夕陽の頬染めて	同
コスモスに風あり不二の暮れそめて	同
雲すでに秋の色ある野面ら哉	同
朝焼けの背戸展けたり菊咲ける	同
秋の夜を歸る我家の灯ぞ愉し	同
灘晴に新酒の樽の薫りけり	同
空を征く我が子偲びつ今年酒	同
刈終えて神樂も愉し今年酒	同
朝露の一と筋流れ薄紅葉	野狐禪